
黒い雨

隆

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

黒い雨

【Nコード】

N9514Z

【作者名】

薩

【あらすじ】

個人で冊子に投稿します

ジャンク。(前書き)

自ら、死を望むお客様へ。

えーっと、殺人鬼と、ネクロフィリアの二人ひと組で活動しております。

お気軽に、御相談下さい。精一杯可愛がりますよ。

ジャンク。

パンツ。

乾いた音がして、瞬間、

眼前が 真紅の霧につつまれる。

俺は、人を殺した。

罪悪感など、微塵もない。

変わり果てた目の前のソレを、軽く蹴ってみる。

小石を蹴るように。

そして、口元が歪む。

異常である。

「ああ、怖いねえ」

なんて、安上がりな言葉を肉塊に投げつけながら。

足早に、その場を立ち去る。

翌日、俺が人を殺めた路地裏が黄色い線で包囲された。

街の大型TVは、けたたましく吼えだてる。

「昨日の事件は・・・」

すげーイラつく。

消えるよ、屑どもが。

お前らの言ってる事なんて、誰も聞いてねえよ。

本当のことなんて隠蔽されてるんだろうが。

世の中に流れる情報なんてもんは、ほとんどが制限されてるんだよ。それを鵜呑みにする？

テメエらさあ・・・バカなんじゃないの？笑うわ。

カニバリズム。

ある廃病院にて。

「陸、おい陸！」

待合のソファに寝っ転がってゲームに打ち込んでる相方に声をかける。

「喘、あんまり怒ると、頭プツツンすよ〜」

コイツの、間延びした声に腹が立つ。俺は、気が短いんだよ。チャツチャと喋れや。

「聞いてんのか、糞餓鬼よオ！」

構わず怒鳴り返すと、かつたるそうに首だけこっちに向けて、またも間延びした声で、

「聞いてるって〜怒んなよ〜」ときた。

こいつ氏ね。まじで。

「死ねや」思わず本音が口から飛び出る。ヤツチマツタ。

世界一俺をイラつかせることだけに才能が長けた糞餓鬼は、

「うつわ、ひで〜俺泣いちゃう〜殺して〜、殺してよオ！」と盛大な嘘泣きを始める。

これだよ。手に負えない。つか死ぬほどうざい。

「俺の事、糞餓鬼って言うけど〜、喘だって立派なガキじゃん〜！」

そでしょ〜」

ああああ、うっぜー黙れよおい。撃っちまうぞ！何が、そでしょ〜、だ。

そんなに頭が水風船みたいに、グチャリてーのか。

我慢しきれなくなって、銃を向ける。40口径は・・・人に向けちゃいけないんだよな・・・

ま、そんな事はどうでもいい。殺すためのモンだしな。

と、突然、獲物が跳ね起きた。嬉々とした表情を浮かべながら、

「喘！俺の肉さあ〜、全部、全部残さずに食べてよね〜！俺、死ぬんなら、喘に喰われてさ、糧になりたいの〜！！！」

あー、駄目だ、コイツ・・・ここまで痛いコだったのか？

ネクロフィリアなうえに、俺に、喰われない？馬鹿げてる。

Mなのか？いや、それはない。死体に関してはこいつは、俺がドンびく程、酷い扱いして愉しむやつだからな・・・縛ったり、挟ったり、ヤッテル事は、死者にとっては恥辱の極みだ。ありえね。

「ね〜！喘！食べてよ！ねえ！」

「俺に、そんなキモい趣味はねえーよ！」

「なんで〜!!」

「黙れ、死ね！」

散々だ、マジで疲れる。この餓鬼、扱いが難しい。

オセロ。

白と黒、ソレは大差ない様で、全く違うものだ。

例えば、コイツのように。

陸は、ネクロフィリアだ。要するに、死人に性欲を感じる。

死体に恋をして、屍を愛する。

いつかの、毒林檎の話の王子サマのように。

俺は、自分のために人を狩る。

殺人こそが悦楽。存在価値だからだ。

だが、陸は違う。

殺す術を知らない。

屍を愛して感じるくせに、殺す事を知らない。

そう、まるで白痴。

生まれたばかりの赤ん坊だ。

対して、俺は、

生かしておく術が解らない。理解できない。

成長しすぎて自分をもて余す餓鬼と同じだ。

『知らない』

と

『理解できない』

似て非なる事柄。

陸は、殺す術を知った俺に、生かすことを解らない俺に。

「新しい玩具が欲しい」

と、綺麗な笑みを浮かべて
ねだるんだ。

こんなに怖くて引き摺り込まれるモノを、

俺は知りたくない。

結局、成す術もなく、
人を殺す事を止めない。

死人を愛することを止めない。

俺達は、二人でやっとマトモになれた筈なのに！

灰色と 二云う

色を

見いだせずにいる。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9514z/>

黒い雨

2011年12月31日03時56分発行